

CIEC1997年度定例総会開催報告

- 日時 1997年8月5日（火）15時45分～16時25分 場所 同志社大学田辺キャンパス恵道館201 出席 本人 142名、委任状 20名
- 1・15時45分、あらかじめ会長により指名された司会者、松本 朗理事（愛媛大学教員）が、出席会員数が会員数の1割以上に達して、総会が成立したことを確認し、開会を宣言した
- 2・ただちに、議長選出に移った。司会者は、議長に一色 健司会員（高知県立女子大学教員）、副議長に湯浅 良雄会員（愛媛大学教員）が理事会より推薦されていることを会場に
- 3.奈良久会長が開会挨拶をした。
- 4・議長より、時間の節約を考慮して議案提案は議案1から7まで連続して行う旨、提案され、拍手で確認された。
- 5・議案1「96年度活動の振り返りと97年度の活動」が矢部正之副会長（信州大学教員）より 提案された。
- 6・議案2「96年度収支報告」、議案3「96年度繰越金処分（案）」、議案5「97年度予算案」が、松田 憲副会長（立命館大学教員）より提案された。
- 7・議案4「監査報告承認の件」が朝岡良平監査より提案された。
- 8・議案6「CIEC会則の一部改訂」、議案7「CIEC総会運営規約」が矢部 正之副会長（信州大学教員）より提案された。
- 9・松田憲副会長（立命館大学教員）より、理事の辞任（佐々木 宏夫理事）と、団体会員 理事のアップルコンピュータからの和波 衛身氏から川波 潤一氏への交代が、8月3日の 1997年度役員改選は 行わないこと、佐々木理事の辞任後も、CIEC会則第9条の定数の範囲内なので、役員補欠選挙も 行わない旨の補足説明がされた。
- 10・提案終了後、議案1から議案7までの質疑討論を一括して行った。
- 質問が2つ出された。1つ目の質問は、議案2の収支計算書の差違の表記のマイナスの符号の 付け方が普通は不足の場合にマイナスを付けるのではないか、又、横罫線を入れて見やす  
ファレンスの表記が、小文字になっているが 大文字が正式 ではないかということであった。理事会より1つ目の質問に対しては、読みやすいように修正等 検討すること、2つ目の質
- 11・質疑討論の終了後、議長はただちに採決に移った。採決は、議案ごとに挙手により行われた。採択には、議案6の「CIEC会則の一部改訂の件」は、出席会員数の3分の2以上の多  
採決の結果は、議案1から議案7まで すべての議案が、圧倒的多数の賛成により採択された。
- 12・16時25分、議長は、すべての議案が終了したことを会場に告げ、議長団の解任とCIEC定例 総会の閉会を宣言した。

議案1：96年度の振り返りと97年度の活動

1 96年度活動の振り返り

CIECはその基本的な理念として以下の点を確認し、活動を進めてきました。「CIECを 設立しようとする取り組みは、全国大学生生活協同組合連合会が主催してきたPCカンファレン  
レンスの基本的精神を 受け継ぎつつ、恒常的な組織を確立することによって、その発展をめざすことにありました。」 このことはCIECの基本的な活動がコンピュータ利用教育の実  
実践し、それを再び持ちより交流することにあるということを 意味します。一言でいえば、それはコンピュータ利用教育に関心のある人々による「実践の共同体」 を形成するという  
するもの ではなく、人間の存在そのものにかかわる広い意味での教育や学習を意味することも確認されてきました）

初年度は以下の5つの専門委員会を結成し、9つの課題に取り組むことを確認致しました。

五つの専門委員会（1） ネットワーク利用委員会（2） ソフトウェア委員会（3） 国際活動委員会（4） カンファレンス委員会（5） 編集委員会

九つの課題

（1）97年度PCカンファレンスを大学生協と協力して開催します。（2）年2回の会誌と年4回のニューズレターを発行します。（3）ネットワーク運営委員会の答申にもとづいてW  
ます。（4）教育用ソフトウェアの交流・評価・開発について引き続きソフトウェア委員会で具体化を はかります。（5）国際交流委員会の答申委にもとづいて、本年度の国際混  
体化をはかります。（7） 会員を対象にソフトウェアの利用実態・ニーズ・開発アイデアの調査を実施します。（8） 会員からの公募に基づいて「特別活動」を具体化し、取り組み

本年度行えた課題と取り組みなかった課題については、それぞれの委員会報告書で「総括」 されていますが、全体としては、組織の基礎的な整備に追われた一年でしたが、こうした

第一は、97年度PCカンファレンス への取組が大学生協と協力しながら、成功裡に進められてきたことです。CIECにおいては、PC カンファレンスは年1度の研究大会という位置を  
告者の募集、分科会の編成がはじめて行えるようになりました。また、シンポ ジウムについても、委員会が設置され、計画的な準備が進められてきました。さらに、シンポジウム の  
いずれも、恒常的な組織 としてのCIECの強みを生かした取り組みで、PCカンファレンスの内容の充実に大きく貢献したと 評価することができます。

第2は、会誌の発行です。内容の改善や充実については、今後も継続して取り組んでいく必要が ありますが、編集委員会委員の努力により、会誌の定期的な発行の目途をつけること

第3は定例研究会の定着化です。本年度の活動予定に組み込まれていませんでしたが、1月に開催 された「北米視察報告」研究会を契機に、定例研究会を開催してきました（この研

第4は第2回理事会で佐伯会員より提起された 「学習者中心の教育」についての研究と理論化が進められてきたことです。12月にはこの課題にかか わって「北米視察」が実施された  
CIECは何らかの公認の理論を持つ団体ではありませんが、「学習者中心の教育」はネットワークを利用した教育のもう一つ のあり方を提起するもので、今後も紹介と研究を強めてい  
の学会からの招待を奈良会長が受け、CIECとして、派遣 しました。これにより、アジア諸国との交流の一步が踏み出されました。 更に、ネットワーク委員会によってメーリングリ  
じた交流や、CIECの社会的な発信のための基盤が整備されました。 しかし、すでに指摘したように、「学術組織」としての整備以外は初年度においては十分に手 をつけることがで  
うになります。

（1） CIECware/textの具体化（板倉会員を中心に先行事例の蓄積が地道に続けられてきました）（2） ソフトウェアの開発と利用の実態調査（3） 単年度特別事業の具体化

こうした活動の弱さは団体会員を中心にCIECの活動が見えないという指摘をうみだす大きな 要因となっています。初年度の基盤整備のうえに、活動の強化が求められています。

現在、CIECの会員登録は以下の表のようになっています。(97.7.23現在)

<個人会員>

|        | 会員数 構成比 |      |
|--------|---------|------|
| 教員     | 337     | 56.6 |
| 職員     | 28      | 4.9  |
| 大学院生   | 19      | 3.4  |
| 大学生    | 9       | 1.6  |
| 企業     | 23      | 4.1  |
| 研究員    | 5       | 0.9  |
| 大学生協職員 | 144     | 22.5 |
| 計      | 256名    | 100% |

<団体会員>

|    | 団体会員数 構成比 |      |
|----|-----------|------|
| 企業 | 16        | 24.6 |
| 生協 | 49        | 75.4 |
| 計  | 65団体      | 100% |

      昨年設立総会以降、個人会員は93名、団体会員は14団体増加しました。このような会員の 拡大は基本的には個人的な努力によるもので、CIECとしての組織的な取り組みは非常  
を中心に納入率の改善が求められます。

2 97年度の活動

      初年度の基盤整備のうえに、CIECでしかできない活動、CIECだからできる活動を一步一步確実に 進めていくことが課題となります。以下、97年度の重点活動のみを確認しておきま

      (1) CIECWare/Textを本格的に立ち上げます。(2) 大学生協と協力して、「ソフトウェア・レビューと交流の広場」(仮称)を設置します。(3) ソフトウェア利用実態調査を  
の存在を社会的に広めます。(5) 「単年度特別事業費」の具体化をはかります。(6) 会員拡大に組織的に取り組みます。

      上記の通り承認された。

議案2：96年度収支報告 収 支 計 算 書

96年度収支報告 (省略させていただきました) 収支計算書につきましては事務局までお問い合わせ下さい。

議案3： 繰 越 金 処 分

(省略させていただきました) 上記資料につきましては事務局までお問い合わせ下さい。

議案4：監査報告承認の件 監 査 報 告 書

CIEC(コンピュータ利用教育協議会) 会長 奈良 久 殿

1997年6月4日

監査 朝岡 良平

倉田 是

今国 喜栄

私達は、CIEC(コンピュータ利用教育協議会)会則13条にもとづき、本会の第1年度(自1996年7月6日至1997年3月31日)収支計算書を監査しました。

この監査にあたっては、会計帳簿及び証票書類について、通常実施すべき監査手続きを実施 しました。

監査の結果、収支計算書は、正確であることを認めます。

以上

議案4の[資料] 監 査 意 見 書

(省略させていただきました) 議案4の[資料] につきましては、事務局へお問い合わせ下さい。

(省略させていただきました) 上記資料につきましては事務局までお問い合わせ下さい。

議案6： CIEC会則の一部改訂の件

CIEC会則の第9条、第13条、第14条、第14条2の「監査」を「監事」に改める。また、今回の改訂に伴い、付則に以下を加える。 この会則は1997年8月5日、一部改訂実施した。

【提案理由】

役員の名称として、監査は一般的には使われていない。役員の名称としては、「監事」または「監査役」である。監査は、監事が行う機能を指すのが一般的である。従って、「監事

◎会則の変更する部分の現会則と改訂案の対象

【現会則】 第9条 本会には次の役員を置く。

一 会長 1名 二 副会長 若干名 三 理事 30名以上40名以内 四 監査

第13条 監査は、本会の会計を監査する。

第14条 会長、副会長、理事及び監査は、総会において選出する。 2. 会長、副会長及び監査は個人会員の中から、理事は個人会員、団体会員の中から選出する。

附則

1. この会則は1996年7月6日CIEC設立総会において制定し、制定の時から施行する。

【改訂案】 第9条 本会には次の役員を置く。

一 会長 1名 二 副会長 若干名 三 理事 30名以上40名以内 四 監事

第13条 監事は、本会の会計を監査する。

第14条 会長、副会長、理事及び監事は、総会において選出する。 2. 会長、副会長及び監事は個人会員の中から、理事は個人会員、団体会員の中から選出する。

附則 1. この会則は1996年7月6日CIEC設立総会において制定し、制定の時から施行する。 2. この会則は1997年8月5日、一部改訂実施した。

議案7：CIEC総会運営規約

(総則)

第1条 この規約は、CIEC会則の第16条から第24条までの規定にもとづき、総会の運営について定めるものである。

2. CIEC会則およびこの規約に定める以外の総会の運営に関する事項で必要な事項はそのつど総会で定める。

3. CIEC会則、この規約および総会で定めた事項のほか、総会の運営に関する事項については、議長が決する。

(会員の資格承認)

第2条 会員の資格確認は、CIEC会則第5条から第8条までの規定にもとづき、事務局が準備した会員名簿によって行う。 2. 書面議決書については前項を準用する。 3. 出席し

(資格審査委員)

第3条 会長は前条を円滑に行なうため、理事で構成する資格審査委員会をおくことができる。

(開会及び議長・副議長の選任)

第4条 会長または会長の指名した理事は、CIEC会則第22条の成立要件をみたしたとき、その数を会場に報告するとともに、総会成立の旨を述べ開会を宣し、議長及び副議長の選任

(議長および副議長)

第5条 議長は第1条にもとづき総会の秩序を保持し円滑に運営する。 2. 副議長は議長を補佐し、議長に事故あるときまたは議長の指示あるときこれに代る。

(議案の説明)

第6条 議長の指示にもとづき議案は理事が説明する。ただし必要あるとき議長は理事以外のものに説明させることができる。 2. 監査結果については監事が説明する。 3. 役員

(一事不再理)

第7条 否決または撤回された動議および修正案は同一総会で再び提出することができない。

(採決・採択の方法)

第8条 採決・採択は挙手、起立、投票のいずれかの方法によるものとし、その都度議長が定める。 2. 書面議決書がある場合は、議案ごとにその賛否に加えて採決・採択しなけれ

（採決・採択報告）

第9条 議長は採決・採択の結果を報告する。

（議事妨害に関する措置）

第10条 総会開催中は、私語や無断発言その他議事を妨害する行為および総会の秩序を乱す行為を することができない。 2. 議長は総会の秩序を乱すものに対しては総会にはかり

（規約の変更）

第11条 この規約の変更は総会に於て出席した会員の議決権の過半数による議決を必要とする。

（施行期日）

第12条 この規約は1997年8月5日より施行する。

---

【資料1】 CIEC活動日誌（96年7月から97年7月）

## 96年

|            |                                                                        |
|------------|------------------------------------------------------------------------|
| 7月6日       | CIEC設立総会・第1回理事会                                                        |
| 7月20日      | 第1回運営委員会                                                               |
| 7月21日      | 第2回理事会                                                                 |
| 8月28日      | 第1回事務局会議                                                               |
| 8月29日      | CIEC会誌創刊号編集委員会                                                         |
| 9月 4日      | 第1回PCカンファレンス実行委員会（以後97年8月までCIEC事務局が97PCカンファレンス実行委員会事務局を兼ね、企画に参加し作業を担当） |
| 9月11日      | 「PCカンファレンス開催と運営について」奈良会長、全国大学生協連 岡安専務の話し合い                             |
| 10月5日      | 教育（研究）ソフト委員会 メーリングリストたち上げ                                              |
| 10月6日      | 第2回運営委員会                                                               |
| 10月17日     | 97PCカンファレンス参加者へのCIEC加入のご案内 452通                                        |
| 10月26日     | 会誌編集委員会（創刊号、掲載内容の確定討議。次号発行計画）                                          |
| 10月31日     | CIECホームページ完成                                                           |
| 11月 9～10日  | 九州地連カンファレンスへ講師を派遣（和歌山大 渡辺 健次会員）                                        |
| 11月12日     | ニューズレター第1号発行／CIEC案内リーフ作成                                               |
| 11月20日     | 会誌「コンピュータ&エデュケーション」第1号発行                                               |
| 12月1日～13日  | 北アメリカ視察「学習者中心のコンピュータ利用教育」 赤間 道夫会員・合場 静夫会員を派遣                           |
| 12月4日～6日   | 国際シンポジウム「教育におけるインターネット利用革命」に参加 奈良 会長・事務局仲田 参加                          |
| 12月7日      | 「産学協同プロジェクトとソフト支援政策」研究会                                                |
| 12月14日～15日 | 大学生協連総会でCIECブースを開設                                                     |
| 12月27 日    | CIEC会員へPCカンファレンス開催とレポート報告募集の案内 434通                                    |
| 12月27日     | 12月27日                                                                 |
| 12月27日     | 他学会へCIEC発足と会誌交換の依頼文発送 48通                                              |

## 97年

|          |                                                               |
|----------|---------------------------------------------------------------|
| 1月7日     | 会員状況（527名＝教職員334、学生・院生29、生協職員143、企業・研究員20）                    |
| 1月11日    | 北アメリカ視察報告等研究会 出席者数 CIEC理事他、約40名 ネットワーク運営委員会（独自サーバーの選定と運用について） |
| 1月12日    | 会誌編集委員会（2号の編集方針決定）                                            |
| 2月1日     | CIEC専用サーバー入る。                                                 |
| 2月5日     | 96年カンファレンス協賛の各社へ97カンファレンス開催の案内発送                              |
| 2月10日    | 97PCカンファレンス シンポジウムメインパネリスト確定                                  |
| 2月12日    | 会員状況（543名＝教職員345、学生・院生31、生協職員144、企業・研究員23）                    |
| 2月20日    | ニューズレター2号発行                                                   |
| 2月28日    | PCカンファレンス第2回全国実行委員会                                           |
| 3月7日     | 会員状況（548名＝教職員348、学生・院生33、生協職員144、企業・研究員23）                    |
| 3月26日    | PCカンファレンス同志社実行委員会                                             |
| 3月28日    | 3回運営委員会                                                       |
|          | 第1回研究会「小中学校におけるコンピュータ教育の現状と課題」                                |
| 3月29日    | 山西 潤一氏、奥山 賢一氏、鈴木 勢津子氏、安部 康美<br>台湾カンファレンスへの招待に触発されて開催。参加者35名   |
| 3月30日    | 会誌編集委員会（2号の編集、3号の編集方針）                                        |
| 4月6日～16日 | 国際活動委員会（オンライン）                                                |

|           |                                                                              |
|-----------|------------------------------------------------------------------------------|
| 4月12日     | ネットワーク委員会、新サーバーにホームページ移動                                                     |
| 4月18日～30日 | 台湾カンファレンス派遣候補選考委員会（オンライン）                                                    |
| 5月8日      | ニューズレターNO.3発行(特集 第1回研究会報告)                                                   |
| 5月14日     | 会員状況 会員数559名、会費納入状況 66.0%（教職員70%、生協職員57.0%）                                  |
| 5月21日     | PCカンファレンス案内リーフ・ポスター発行🔗                                                       |
| 5月24日     | 第2回研究会「教育とコンピュータ」 佐伯 胖氏、宮崎 耕氏 京都にてPC実行委員会と共催、プレカンファレンスとして実施 参加者数61名 事務局会議    |
| 5月26日～27日 | 「アジア地域における小中学生のための情報教育カンファレンス」 台湾にて奈良 会長ゲストスピーカー 奥山 賢一会員派遣                   |
| 5月28日     | 監査会                                                                          |
| 5月30日     | PCカンファレンス案内と97年会費納入の案内発送                                                     |
| 5月30日     | 教育（研究）ソフト委員会                                                                 |
| 6月4日      | 監査会                                                                          |
| 6月7日      | 第3回研究会「KIEプロジェクトの現状と今後」 プレカンファレンス （マーシャ・リン女史、コーディネイター：佐伯 胖氏、通訳：松本 佳穂子氏 参加者数3 |
| 6月8日      | 第3回理事会（96年活動のまとめと97年方針、総会議案の確定、設立準備段階の決算報告と、96年度決算）                          |
| 6月14日     | 97カンファレンス第3回実行委員会                                                            |
| 6月16日     | 会員状況 会員数561名 会費納入状況 24.4%（97年分）                                              |
| 6月27日     | 会誌 VOL2発行 個人・団体会員へ総会案内発送                                                     |
| 7月25日     | ニューズレターNO.4発行（5.24研究会 プレカンファレンス企画、6月7日研究会報告）                                 |
| 7月26日     | 第4回運営委員会                                                                     |
| 8月3日      | 第4回理事会                                                                       |
| 8月5日      | 1997年度CIEC定例総会                                                               |

上述の様に本委員会での担当を決めておりますが、この担当の業務は全体的な編集に限定し、各ページの内容は各々を担当する多くの会員・委員会・会員グループに担っていただき、より 魅力のあるページに していきます。 このような協同によるページ作成のため、各ページの作成については緩やかな基準を設け、 ページの統一性を計ります。

(2.3) PCC'97に於けるネットワークサービス

PCC'97において、ホームページ作成の支援、マルチメディアサービスの試行等を通じて カンファレンスの成功を目指します。特に、マルチメディアサービスの具体化へ向けて、 するようにします。

(2.4) CIECware/text

CIECware/textのワーキンググループの議論に沿って、本委員会としてはデータベース担当を 中心として推進して行く所存です。この目的のために、メール（メーリングリスト）、 スを検討していきます。

【資料3】 ソフトウェア委員会の活動の振り返りと97年度の活動

1 活動の振り返り

本委員会の基本課題は、CIECの事業活動の一つとして位置づけられている「すぐれた 教育用のソフトウェアの発掘、普及、開発」活動（CIEC会則第三条[事業]第四項）について 検活動をおこなう ことを確認した。

(1) CIECware/textの具体化をはかること。 (2) 教育・研究用ソフトウェアをめぐる実態調査の実施 (3) 委員会としてオーサリング、フレームウェアの発掘、評価、紹介活動・ 開発する。 (5) 公的資金の利用方法について研究する。

このうち準備段階から議論が先行していた (4) の「先行事例となるようなソフトウェアの 開発」を中心に委員会の活動が進められた。具体的には、すでに企画段階を完了していた し、プロジェクトチームに 作業が委託された。プロジェクトチームの作業は計画よりもやや遅れたが、このたび「開発計画」 がソフトウェア委員会に提出された。ソフトウェアの開 において審議し、次の段階に進むかどうかを決定する」と いうことが確認されているが、委員会のみでこの問題を審議するのはあまりにも課題が大きすぎる ので、理事会内に特別委

(1) のCIECware/textについてはソフトウェア委員会で議論が進められてきたが、月日の運営 委員会の議論において、特別のワーキング・グループを設置し、構想の具体化を図る ても継続して議論し、構想の具体化を はかりたい。

CIEC会誌のソフトウェア・レビューについて、第2号よりソフトウェア委員会が担当すること になった。第2号については十分な原稿を集めることができなかったが、今後は後述の っ、紙面の充実に貢献していき たい。

すでに指摘したように96年度は、議論が先行していた「先行事例となるようなソフトウェアの 開発」をめぐる活動に終始した。この面で一定の経験が蓄積されたが、全体として「 員会としておこなうべきより 基礎的な活動はほとんど手をつけることはできなかった。委員会の基礎体力の強化をはかりながら、 早急に基礎的な活動に着手する必要がある。

2 97年度の活動

以上の振り返りを踏まえ、97年度は以下の三点を重点に活動を進めたい。 (1) 教育・研究用ソフトウェアをめぐる実態調査の実施 <別紙参照> (2) 「ソフトウェア・レビ フトウェア開発のあり方の検討

【資料4】 CIEC国際活動委員会

1996年度活動報告及び1997年度活動方針

(1) 1996年度活動報告

1 海外研究団体、学会などからの最新の情報の入手の取り組み

10月6日第2回運営委員会で、本年度の国際活動として以下の点について確認しました。

・CIEC会誌の特別企画（学習者中心の教育実践というテーマ）のための情報収集、 および CIECの国際的なコンタクトを広げるための活動として米国およびカナダに会員を派遣する。 国際活動委員会の海外派遣に関する選考内規がまだ制定されていないため、今回の派遣者の 選考は、運営委員会からの推薦として、国際活動委員会の承認をえる。 ・本年度の予算の いる。 ・派遣者については、2名を検討の上、承認した。

2 海外派遣に関する選考委員会内規（案）を策定 台湾の「小中（K-12）における情報教育を めぐるカンファレンス」へのCIECからの派遣者の候補推薦が諮問されたことに関わっ 海外派遣者の選考委員会内規

1. CIECが、その国際活動の展開のために、海外調査、海外学会などに会員を派遣する必要が生じた際は、海外派遣に関する「選考委員会」を設置して派遣者の選考を行う。
2. 「選考委員会」は、国際活動委員会の常設委員会とする。
3. 「選考委員会」の構成は以下の通りとする。 国際活動委員会委員より互選にて4名選出。 派遣者の選考の必要が生じた際には、当該派遣者の 任務分野と同じ専門分野の専門委員1
4. 「選考委員会」は、派遣者の選考を、一般公募ないし推薦の2種のうち、いずれを採用するかを 決定する。
5. 一般公募の場合は、CIECニュースレターあるいはCIEC WWWホームページのいずれか、 ないし両方において広報し、2週間程度の募集期間をおく。
6. 推薦の場合は、選考委員会が責任をもって、当該分野の専門性や語学力などを勘案して適任者を 推薦する。

3.海外学会、研究団体との交流活動

台湾の「小中（K-12）における情報教育をめぐるカンファレンス」への派遣者の推薦「小中（K-12）における情報教育をめぐるカンファレンス」（台湾にて5/26(月)～5/27(火)として、学会及び報告の模様をビデオに収めて、それを会誌に報告する会員1名を派遣しようということが、運営委員会 で決定されました。この派遣者について、国際活動委員会とともつぎ推薦候補者1名の選考を行いました。

4. 国際活動委員会の委員の交代

神戸大学の内田 一徳先生が、勤務校のご都合で国際活動委員を辞任されることになりました ので、かわって、豊橋技術科学大学の野澤 和典先生に委員をお願いすることになり、

5. CIEC 第3回研究会「KIEプロジェクトの現状と今後」への協力の取り組み上記研究会を成功 させるため、当日の講演の通訳の斡旋および司会を、国際活動委員会が担当した。

(2) 1997年度活動方針

- 1. 海外研究団体、学会などからの最新の情報の入手
- 2. 海外研究団体、学会との交流、研究会や講演会の開催 (カンファレンス委員会との共同の取り組み)
- 3. 海外の大学、学校、研究団体などと共同研究、実験授業などの可能性の追求
- 4. CIECのWWWホームページを活用した広報、情報交流活動

【資料5】会誌編集委員会

(1)創刊号関係

<1>発行部数および販売部数（別紙）

創刊準備号での独自出版の経験をふまえて、市販性等を考え、創刊号から柏書房から発売する ことになりました。

<2>普及 大学生協

生協毎での対応によって販売実績の差が出ましたが、30部を越えて利用されたところもあります。 宣伝の工夫を一般化することが必要です 書店、日販、東販ルートで書店にも 的位置および会誌の知名度をあげるためには不可欠なルートです。 会員創刊号は団体会員生協の事務局ルートで送付しましたが、困難があったため、以後事務局 からの直送に切り替

<3>編集

創刊号の中味と形式について以下のような要望がありました。

(1)ソフト紹介の充実の要望 (2)編集委員名の明記 (3)編集・発行・発売の明確化 (4)別刷の処理（教材等の用途にはドキュテックで対応）

さらに創刊号準備過程で、2名の新編集委員をむかえ、査読体制の強化をはかりました。

(2)第2号関係

<1>特集関係

創刊号からの継続の観点からCIEC視察レポートをメインにするとともに、第2号から新たに 巻頭インタビュー（東大坂村先生）を企画しました。

<2>ソフト委員会との連携によるソフトレビュー

第1号での指摘をふまえて、ソフトレビューをソフト委員会に依頼することにしました。第3号 以降でもこの体制で臨むことにします。

<3>数本の投稿原稿

数本の原稿が投稿されており、会誌がCIECに定着しつつあるとともに社会的影響力が徐々に 増しつつあることを実感できます。

<4>査読体制の強化

査読については、基本的に編集委員2名の査読とし、内容により2名の査読が難しい場合でも 最低1名の編集委員の査読をすることにしました。これは編集委員会の力量を試す試金石 責任を明確にする意味を持って います。

<5>普及

今後さらに普及をはかるために、図書館、研究費での継続購入を働きかけるほか、大学生協に おいては宣伝ツールの雛形の作成あるいはサンプルの普遍化をはかります。 また、すでにCIEC MLを通じて依頼済みである）。

<1>刊行時期

柏との契約によれば5月と11月刊行となっているので、この時期の刊行に合わせて編集作業を 具体化しつつあります。

<2>特集編集責任体制

創刊号および第2号の経験をさらに誌面の充実に生かすために、特集については編集委員の 持ち回りによる責任体制とすることが確認され、長期的展望にたった編集をめざすことに

【資料6】カンファレンス委員会

## 1 カンファレンス委員会の役割

カンファレンス委員会は次の役割を果たしています

(1) PCカンファレンスの企画運営

(2) 日常的な研究会および講演会等の企画運営を行うこと。

日常的な研究会の企画運営をこの委員会が中心に行うことについては、第3回運営委員会

(3月29日 開催) で提案され、確認されました。

日常的な企画では、3回の研究会を企画・開催しました。

## 2 96年度の活動

(1) PCカンファレンス

97PCカンファレンス(同志社大学)に向けた準備における特徴点は次の通りです。

今年は コーディネーターを設けた分科会を設けるなど、企画に深み(あるいは系統性)と広がりを持たせるよう努力した。司会者会議を充実させるなどの工夫を行った。初日にテーマを中心に企画が行われ 充実した内容になった。

テーマ「教育におけるコンピュータ利用の新しい方向」

(2) 日常的な研究会

96年度は、以下の3回の研究会をもちました。

第1回テーマ「小中学校におけるコンピュータ教育の現状と課題」(3月29日大学生協会館)

奈良先生の台湾で開催された情報処理教育のカンファレンス(テーマ「アジア地域における小中学生のための情報教育カンファレンス」)へ招聘されたためそれにあわせてこの研究会

第2回 テーマ「教育とコンピュータ」(5月24日:コープイン京都)

関西でも研究を開くことを目的に研究会を開きました。

第3回リン女史による講演 テーマ「KIEプロジェクトの現状と今後」(6月7日:大学生協会館)

カルフォルニア大学のリン女史の来日にあわせて研究会をもちました。日常の企画では、海外での会議へのメンバーの招聘に関わって研究会をもったり、海外からの講師を招くなど、

## 3 今後の課題と97年活動

もともとこの委員会はPCカンファレンスの企画・運営を中心に設けられたために、日常の研究会の企画・運営については組織的に動く体制ができていませんでした。

この点、理事会でも確認のうえ、日常の研究会を組織的に企画・運営する体制を整え、以下を97年方針としてすすめます。

(1) ホスト校と協力して98年カンファレンスの企画実施につとめます。

(2) 東京だけにとどまらず、可能なら地域での研究会開催につとめます。

(3) 電子出版の可能性を探ってみます。